

織田信長最大の危機
元亀争乱

「天下布武」を唱え、天下統一への道を邁進しながら、志半ば、本能寺の変で倒れた織田信長。この天下統一への道は、決して平坦な道程ではありませんでした。天正年間には有能な武将を多数召し抱え、最強を誇った信長にも、大変な危機的状况に陥った時期があったのです。それが元亀年間（一五七〇〜一五七三）に、主に近畿地方各地で行われた、信長と反信長勢力の激しい抗争で「元亀争乱」と呼びます。

元亀争乱は、元亀元年四月の織田信長の朝倉攻めに際して、同盟関係にあった浅井長政が離反し、朝倉方についたことに端を発します。この離反で浅井軍と朝倉軍の挟み撃ちにあった信長は、越前金ヶ崎（現在の敦賀市付近）から朽木谷を通り京へと、朽木信綱の助けを得て、辛うじて帰還することができたのです。この時以降信長は、浅

は將軍足利義昭追放・義昭の二度の挙兵、越前侵攻・朝倉氏滅亡、小谷城攻め・浅井氏滅亡と、事態は一気に信長に有利に進み、これら一連の抗争は終止符を打ちます。しかしこれら以外の抗争も多々あり、そのたびに信長は西に東に奔走し、難局の打開にあたったのです。

約四年を費やして、ようやく近江を平定した信長は、本拠地岐阜と京を結ぶルートを中心に掌握し、天下統一への大きな足がかりを得ることとなったのです。

井氏と朝倉氏が滅亡する天正元年（一五七三）まで、近江では浅井朝倉両勢力・六角氏・一向宗勢力・延暦寺等と、山城・摂津・河内等では三好三人衆・松永久秀・一向宗勢力等と抗争を繰り返すこととなります。

抗争は信長の朝倉攻めに始まりませんが、時系列に主な争いをあげると、北近江での姉川合戦、摂津での野田・福島の戦い、南近江での坂本合戦と堅田合戦、伊勢長島の一方向一揆攻撃、比叡山焼き討ちと続き、天正元年に



元亀争乱における勢力図(「元亀争乱」安土城考古博物館 を一部改変)

年	事象
元亀元年(1570)	織田信長、朝倉宗茂を破る。浅井長政が離反し、朝倉方についたことに端を発する元亀争乱の始まり。
元亀元年(1570)	浅井長政、朝倉宗茂と連合して、織田信長を京へ追いやった。
元亀元年(1570)	織田信長、辛うじて京へ帰還した。
元亀二年(1571)	織田信長、比叡山を焼き討ちした。
元亀二年(1571)	織田信長、北近江の姉川で、朝倉軍を破った。
元亀三年(1572)	織田信長、坂本合戦で、朝倉軍を破った。
元亀三年(1572)	織田信長、堅田合戦で、朝倉軍を破った。
元亀三年(1572)	織田信長、伊勢長島の一方向一揆攻撃を行った。
天正元年(1573)	織田信長、朝倉宗茂を破り、朝倉氏を滅亡させた。
天正元年(1573)	織田信長、浅井長政を破り、浅井氏を滅亡させた。
天正元年(1573)	織田信長、京へ移った。

元亀争乱関連年表(「元亀争乱」安土城考古博物館 より転載)